



2026 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社 GENDA
代 表 者 名 代表取締役社長 CEO 片岡 尚
(コード番号：9166 東証グロース市場)
問 合 せ 先 常務取締役 CFO 渡邊 太樹
(E-mail investor_inquiries@genda.jp)

よくある質問と回答 (2026 年 10 月)

日頃より、当社へご関心をお持ちいただきありがとうございます。今月、投資家様より頂戴した主な質問とその回答について、下記のとおり開示いたします。

なお、本開示は投資家様への情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的に、毎月月末を目途に開示するものです。回答内容については、時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります、直近の回答内容を最新の当社方針として回答を記載しております。

なお、過去の「よくある質問と回答」は当社ホームページをご覧ください。

<https://genda.jp/ir/faq/>

Q1. 既存事業のフリーキャッシュフロー（FCF）を創出する方針に変更しましたが、来期以降も同じ方針ですか。

はい。来期以降も、既存事業の FCF を創出する方針に変わりはありません。

当社は 2025 年 12 月に発表した戦略修正で、既存事業の成長投資（グロース Capex）を厳選して既存事業の FCF を黒字化する方針に転換しました。

変えること：資本市場と整合的な M&A 戦略に修正

いままで

■ 多様なエンタメ企業の M&A をハイペースで実施

- その場合、借入余力があっても、ハイペースな M&A に新規融資が実務上追いつかず、手元資金の拠出が必要に
- そして、同時に既存事業にも全面的な成長投資を実施し、FCF を積極的にマイナスに（今期計画：FCF ▲100 億円）

■ それでも M&A のスピードを優先したため、M&A 待機資金目的の公募増資を「2 年連続」で実施

- M&A 規律を遵守し、上場来の株数は 48% 増に対し、のれん償却前当期純利益は 196% 増、結果として Cash EPS は 101% 増
- しかし、この戦略を継続すると、M&A 待機資金の「連続的な公募増資」が必要に

これから

■ M&A（インオーガニック）の戦略修正

- 原則として中核領域のロールアップ M&A に集中する
- 中核領域以外の M&A は、限定的に厳選する（結果的に M&A 件数を減らしつつ、全社の成長性の維持に寄与する案件に厳選する）
→ 案件を厳選して M&A の頻度を落とせば、M&A 案件ごとの借入が可能となり、借入余力をフルに活用できる

■ 既存事業（オーガニック）の戦略修正

- 既存事業の成長投資を厳選し、既存事業の FCF を来期 50 億円創出する
→ 約 150 億円の FCF の改善、直近の M&A 待機資金目的の公募増資額 154 億円と同規模の金額

■ 全社的な資金調達戦略修正

- 上記の戦略修正を通じ、過去 2 回実施した「M&A 待機資金目的の公募増資」を今後 3 年間には行わない
→ 資金を事前で得てから将来の M&A に順次充当するという形態の公募増資を、少なくとも 2029 年 1 月末までは行わない

単位：億円	今期計画	来期計画	差額
EBITDA	220	280	+60
税金	40	50	+10
メンテナンス Capex	60	65	+5
FCF（営業活動）	120	165	+45
グロース Capex	220	115	▲105
FCF（グロース Capex 後）	▲100	+50	+150

注：株数増加率は IPO 前日（2023 年 7 月 27 日）時点と 2025 年 11 月末時点の当社発行済み株式数から算出。のれん償却前当期純利益増加率は 2023 年 1 月期実績と 2027 年 1 月期予想から算出。
Cash EPS 増加率は、前述の株数増加率と のれん償却前当期純利益増加率の計算に使用した株数及びのれん償却前当期純利益の数値を使用し算出。

（参考：2025 年 12 月 12 日開示「2026 年 1 月期第 3 四半期決算説明資料」[9 ページ](#)）

前期（2026 年 1 月期）の既存事業において、EBITDA とほぼ同水準の成長投資を行っていたため、既存事業の FCF はマイナスでした。

今期（2027 年 1 月期）は、EBITDA が拡大する中でも成長投資を前期の約半分に絞り込み、既存事業で 50 億円の FCF を創出する計画です。

設備投資は主にゲーム機の購入で、上期に集中して発生します。そのため、FCF は下期に偏って創出される見込みです。

来期以降も、既存事業で FCF をしっかりと創出する方針に変わりはありません。EBITDA の成長に伴って FCF も増やしていく方針です。

創出した FCF は、借入とあわせて、EPS 向上に寄与する M&A に優先的に振り向けます。なお配当については、成長投資を阻害しない範囲で、規律を守った毎年の増配を基本方針としております。

Q2. 情報セキュリティへの取り組みについて教えてください。今後対応が必要な場合、追加でかかるコストを教えてください。

GENDA では、従業員の約半数がエンジニアなどの IT 人材で構成されており、セキュリティ管理やプロダクト開発を社内で行っています。

自社開発のプロダクトは、設計段階からセキュリティを重視して構築しています。また、脆弱性が見つかった際には、自社で迅速に対応できる体制を整えています。

組織面では、GENDA のテック部門がグループ各社のセキュリティを統括しており、M&A でグループに加わった会社にも順次当社の基準を適用しています。

2025 年 4 月にはグループ横断のインシデント対応組織「GENDA CSIRT」を設置し、同年に日本シーサート協議会（NCA）に加盟しました。また、グループ全体で情報システム管理規程・細則を定めて運用しており、内部監査などを通じて定期的に点検しています。

お客様の個人情報の保護は特に重要な課題と位置付けており、取り扱う範囲を必要最小限にとどめ、アクセス権限を適切に管理しています。また、生成 AI の利用については、グループガイドラインを策定し、個人情報や知的財産の取り扱いについてのルールを明確にしています。

今後もシステムの計画的な更新や定期的な脆弱性診断などを継続して実施していきますが、いずれも既存の予算の範囲内で進めることが可能であり、現時点で大規模な追加投資は想定していません。

以 上